

第4回 神野公園再整備検討委員会 議事要旨

日時：令和5年11月17日(金) 13時30分～15時30分

場所：佐賀市役所 庁議室

委員：後藤隆太郎、かくもとしほ、上赤博文、喜多浩人、木下博幸、
徳田誠、富田紘次、納見浩司、馬場久雄、山口美恵（10名）（敬称略）

アドバイザー：佐賀市情報発信強化アドバイザー 博報堂ケトル 井手康喬

議 事

■神野公園再整備についての委員コメント

●前回（第3回）の振り返り

○3か月に1回のペースで検討委員会を開催しており、再整備基本計画のため今回と次回あたりが極めて重要な議論の場になる。

●アンケート調査結果について

- 400人弱の回答がある中、鍋島保育園の保育士は回答されたが、小学校の先生の回答はないか。
（行政）実際に公園を利用する小・中学校にターゲットを絞った。保育園の子どもたちの意見は、保育士が子どもたちを連れて遊ばせるため回答を頂いた。
- アンケートの質問項目に「直近で神野公園に来たのはいつか」はあるか。
（行政）アンケート項目は「改善してほしい点」、「体験をしたいこと」の2点で、フリーに意見を聞いており、その他のアンケート項目はない。

●7つの新たな体験の具現化について

●再整備計画図（案）について

- （井手）目標は『7つの体験を目的とした再整備によって、多様な来園者に独自の体験と話題を提供できる公園に生まれ変わる』
それが、『新しいことに常に取り組む新しい佐賀市の象徴として市外や全国からも評価され、佐賀市民に自信や地元愛を生み出していく』
再整備後、公園に来た人達に満足してもらうだけでなく、「佐賀市で新しい取り組みをやっている」というPRとして広がっていくと良い。
これは「体験をつくるのが目的で再整備が手段になっている」点を意識する。
来園者の体験（ソフト）を目的にして、ハードを再整備するやり方が、今回のポイントである。
- 『5. 教育（遊び）』の体験としてグラウンド東側の水路の愛称を募集して、とんぼ教室などをすると良い。
- 整備された後は、駐車場の点在や週末の収容台数の不足が問題になるため、考える必要がある。
- グラウンドゴルフの体験は、『4. 運動・健康』になる。
- （井手）個人的には「教育」よりも「学び」の方が良い。7つの体験を決めたときに、この7つでなくても良い。教育にかわる新しい言葉は「子育て」でも良い。

公園は「公」と書くので、色々な目的に見合うような、幅の広さと多面的な魅力が必要だ。

他の公園とは違う個性をアピールしていくときに記号を1つ取り出せると良い。再整備としては多面的な広さを持ちつつ、それを個性とするときに何か1つ強いシンボルが出来たら良い。

- トイレは数を減らしても良いので、明るく綺麗で人の目につく所に設置する。
- 神野公園を考えたときに、7つの体験のそれぞれに共通した何かがあっても良い。
- 計画図（案）の『Aのエントランス広場』に朝採りマルシェや市場があれば面白いし、交流や健康の場になる。
- ランドマーク的な建物にデッキをつけて、上から広く見渡せる場所を設け、その下に店舗が入るのも良い。
- 『樹林地』は魅力的な場所で、例えば斜面に住むのに適応した動物がいる空間や遊び場にしても良い。
- 夏の利用者を減らさないために、水を使った涼める場所や水路を使った遊びも必要である。
- 計画図（案）に多布施川があり『1. 自然・環境』の『公園と多布施川との連携』とは、どのようなイメージなのか。

（行政）神野公園と多布施川沿いの園路を散策しながら自然や緑を感じ、触れ合うイメージ。

- 多布施川に入るのは流れが速いので問題だが、とんぼ池でも体験イメージに魚捕りがあれば良い。
- グラウンド東側にある水路は、とんぼの幼虫なども捕まえられる。
- 計画図（案）の『Aのエントランス広場』の東側には多布施川に降りる階段があり水と触れ合える。こども遊園地と『Eの遊具広場』の間にある植栽帯を流れている細い水路にもヤゴや魚の希少種が生息しているので、PRできる。
- 『Aのエントランス広場』を魅力的にすることは良いが、駐車場自体が狭いので別の入り口から入る方も多いので、それぞれ入り口に入る楽しみがあれば良い。
- 『Cの芝生広場』についても、芝生の上でたたずめるのは春と秋の一時期だけで、冬は寒く、夏は暑いので何か工夫が必要だ。
- 『Bのとんぼ池』の園路が十字になっているが、整備するときに動線を遊園地から芝生広場に向うときにとんぼ池を経由するなど、園路をうまくアレンジすることで色々な場所を皆さんに周って頂ける。
- 『Eの遊具広場』に、物を販売する店舗があると、公園の中心なので、色々な方がここに集まり買ってあちこちに行く。他にトイレを置いても良い。
- 『1. 自然・環境』の項目は生物と親しめる体験で、それと同時に、水辺の気持ち良さの項目が増えている。自然がつくる気持ち良さのテーマもあり「水を体験する」こと。

（井手）この7つのうち、「教育」という言葉はなくしても良いが、7つ目の体験として、公園の個性を入れたら良い。1つ目の「自然」という言葉はいわゆる自然体験だが、7つ目の体験として「水路」や「水との触れ合い」を公園の個性として入れたら、それが1つのシンボルになる。

神野公園がリニューアルしてニュースになるとき、「新しい神野公園は水の公園」となる。

- 水の話はすごく良く、多布施川の水を使い夏に子どもたちが水遊びできる場所を造るのは良い。
- 『Aのエントランス広場』に季節限定でミストをしたら良い。
- 大池を見るだけでも楽しめるし、水辺の良さを知り、横を流れる多布施川を最大限に使うのは良い。
- 水をテーマにするというのは賛成だが、水をテーマにする公園は結構ある。
- 「お茶屋」や「隔林亭」は他の都市公園にはないので、それを中心とする日本庭園がメインだ。
- 公園と多布施川と一体的に整備すると魅力がある。

（井手）再整備は、ハードを軽視することではなく、体験を想像しながら進めると良い整備になる。

○「神野のお茶屋」の話は大事で、公園のルーツであり、「お殿様が造った」ことで「お殿様が体験できる」、「歴史を体験する」ワードはどうか。

(井手) この公園の個性は水路と殿様の二つある。組み合わせて「殿様の水遊び公園」も悪くない。

○大池に小船を浮かべて池を周遊したり、「隔林亭」と「お茶屋」の間に架かっていた太鼓橋を復元して、着物を着て船に乗って橋をくぐったり、歩いて橋を渡ると、非日常の景色を体験できる。

○着物を着て、漆塗りのさげ重に入ったランチを食べると、格別な体験ができる。

○江戸時代の夜の楽しみ方はお月見で、お酒を酌み交わしながら、学者を呼んで漢詩文を読み合うのは良い。

○ヨーロッパは日中暑すぎるため、夜の公園は子どもも遊んでいてにぎわっており、夜まで利用できると特に夏は良い。

○大池に生息しているコウホネは佐賀県の絶滅危惧種ではあるが、繁茂しすぎているので、5分の1ぐらいに減らして良い。

○和歌にちなんだイベントも面白い。長さや幅が水の宴とマッチするので体験の一つとして良い。

○とんぼ池や駐車場など維持管理がかかるので、先のことを考えた上で検討したほうが良い。

○園路、樹木は共通する項目で、駐車場、駐輪場、トイレ、サイン（案内板）の記載が必要だ。

○駐車場まで含めて、神野公園のメインとなる入口を計画することが必要だ。

○メインのエントランスは歩行者、自転車、車両、誰を想定するか。

○大型バスが停まれるような大きな駐車場が必要だ。

○『Dのこども遊園地前広場』についてキッチンカーなどが出店し、「小広場を設けて、家族連れやグループが休憩や飲食などに活用する空間」は屋根付きでイス無しの空間を整備する。

○『Dのこども遊園地前広場』は、デッキなのか。休憩を想定するなら、必ず日除けが必要だ。

○「とんぼ池」は、佐賀市がメインで整備して、ボランティアが補助的に作業するのが望ましい。

(行政) 適正な管理をしていく上で、少し規模を小さくできればと考える。

○『Eの遊具広場』は、とんぼ池と隣接した場所なので同じような水質が得られる。とんぼ池の面積を減らした分を、『E』のところにスイレンが無い池を造る案もあり絶滅危惧種が定着するかも。

○『Aのエントランス広場』から正面に見えるのがとんぼ池で、天気が良く、季節がいい時期に行くと、すごく眺めが良い。

○座って景色を楽しめる休憩スペースが、園全体の色々なところにあると良い。

○「神野のお茶屋」のお庭などをカジュアルに見ることのできるデッキがあれば良い。

(井手) ゾーニングは、つくる側の計画の目線、来た人の目線でいうと、ゾーニングより動線を考えるのが大事だ。一つひとつの体験をしたい人がどういう動線で歩くかを、マップに落とし込んで考えても良い。

○グラウンド東側の水路を水遊びができる場所として整備するのは、現在葦がすごく繁茂しており、簡単には除去出来ないし、かなり難しい状態だ。

○市の施設は市が管理するのは当然だが、ボランティアや地域の人と一緒にあって、使ったり維持することが、今までやってきた一つの歴史でもあるので、持続性はある程度考える。ボランティア団体や地域の子もたちが清掃に参加したり、地元の小学校と交流したり、新しい形の公園管理として、市民参加について発信できる。

○ボランティアの方は、今後も清掃活動を継続していきたい。ボランティアを行う狙いは、情報発信の意味もある。

○「とんぼ池」は、佐賀平野の中で1番とんぼの多様性が高い場所で、平成元年にこの「とんぼ池」を整備し、全国に先駆けて「とんぼが飛びかうまち」を目指し、長く続いていることで佐賀市にとっても貴重な財産でPRできる場所なので活用するのが良い。

行政：（環境政策課）環境基本計画の中で、「とんぼ飛び交うまち」と掲げており市内でもこのとんぼ池と金立公園の蓬莱池は、とんぼの種の多様性があり優先して環境保全していくべき。

○「神野のお茶屋」のメインエントランスは東側で、建築的なアプローチやここに人を導く動線もすごく大事だが、駐車場もないので、この部分を何か考えないといけない。

○「神野のお茶屋」の東側にある縦に伸びる園路は、深さが約2m、幅約3mの囲ぼりがあった場所なので、入り口付近だけでも囲ぼりの形跡みたいなものを造ってはどうか。

○グラウンドも、お殿様が作ったお庭に入るから、簡単に駐車場するのは難しいが、交通公園も合わせて駐車場問題を考えられないか。

●その他

○スケジュールは、今後、第5回、第6回とあるが、この検討委員会はこれで終わりか。

（行政）検討委員会は、第6回までで、再整備の基本計画を取りまとめ、議論を受けた御意見をもとに実施設計を進めていく。実施設計等の際は報告させていただき、必要に応じて委員の方に御意見を伺うことがあればお集まりをいただく。

○「とんぼ池」については、今後、市と連絡・調整が必要である。